令和８年10月６日

議会議長　鈴木　晴範　様

文教厚生委員会
委員長　日吉　智

閉会中における所管事務調査についての報告

函南町議会会議規則第77条の規定により、次のとおり報告いたします。

記

１　開催日時　　令和８年７月22日（水）午前９時00分
２　委員の出席状況　　委員全員出席
３　調査事項

⑴　高齢者移動支援の取組みについて

平成29年度より自治会単位で開催されている地域の支え合い勉強会において、高齢者の移動支援を地域課題とした２つの自治会で令和７年９月から本格運行をしているデマンドタクシーと当町をモデル地域として行っている内閣府主導での移動手段の手当てが地域づくりや活動に与える福祉的効果の検証状況について、説明を受けた。

デマンドタクシーは、桑原区を対象に運行するくわ里号、奴田場区を対象に運行するぬたタクの両路線ともに運行日数及び輸送延べ人数等が前年度より増加しているものの、実際の利用者数は減少もしくは横ばいであり、利用者の固定化が課題となる。桑原区及び奴田場区からは、継続した運行が望まれており、高齢者の社会参加や外出支援を継続することで、介護予防と生活支援につながっているとのことであった。

福祉的効果の検証状況については、研究対象はフレイル高齢者の自立支援を促すため、新規要支援者または新規事業対象者の取り込みが必要であり、ケアプランに基づくサービス利用が前提となることから、被験者の確保が課題となっているとの説明を受けた。

地域の支え合い勉強会での課題を踏まえ、高齢者の移動支援が必要な方に必要なサービスが届けられるよう今後も調査・研究を継続していただきたい。

⑵　湯～トピアかんなみの運営の現状について

町民の健康増進を目的として運営している湯～トピアかんなみの現状について、説明を受けた。説明では、湯～トピアかんなみの入館料をこれまで増額しておらず、消費税増税分の金額を町が負担していることや物価高騰、レジオネラ属菌対策、施設設備の老朽化に伴う修繕・工事費の増加などの影響を受け、町の財政負担が大きくなっていることを確認した。この財政負担を少しでも軽減するために、令和７年度に湯～トピアかんなみ長寿命化計画を策定し、計画に基づいた予防保全を実施することで修繕・工事費を削減、併せて入館料の見直についても検討していくとのことであった。

町民の健康増進施設として、安心して快適に利用できるよう、施設の適切な維持管理や適正な入館料見直しにより、長く安定した運営を継続して町民の健康増進が図られるよう期待する。

⑶　小学校の複式学級について（現地視察）

丹那小学校で本年度より運用している複式学級について、説明を受けた。

複式学級は、年齢の異なる児童が一緒に学ぶことで子ども同士の交流が促進され、自立心や協調性の育ちが望めるといった効果がある一方で、学年ごとの進度や理解度の差に合わせた指導が難しい、児童の社会的体験が限定される、教員の負担が増加するといった課題もある。複式学級では、学習内容の差異を同時に教えるスキルや工夫が求められ、２学年の教材準備や指導計画の作成、学級運営など、教員の専門性が必要であり、単学級以上に担任教員の負担が生じてしまう。加えて、複式学級になることで学校全体の教員配置数が減少するため、学校運営上、教員一人当たりの事務分掌が増え、全ての教員の負担が増加するとのことであった。

今後、少子化による新入生の減少が確実な状況であり、丹那小学校以外の小学校にも影響を与えることが予想できる。公平な学びの機会を確保するためには、教員の働き方を含めた教育環境の整備が必要不可欠であることから、今後の複式学級のあり方について、早急に調査・研究を行い、適切な対応が求められる。